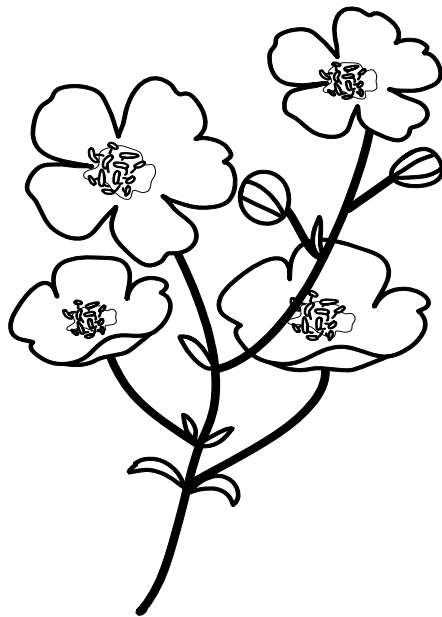




# 運営に関する計画

平成29年度

(最終評価)



## 大阪府立菅原小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題****【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**

生活指導面では、5年生ではサポートセンター、6年では東淀川署の協力のもと非行防止教室を毎年開催している。そのため暴力行為を含め、全体的な生活指導での事案は減少した。いじめについて校内アンケートによる自己評価では、「みんなで助け合って協力する」の項目と「友だちの嫌がることをしたり、言ったりしない」の項目はできたと思う児童が80%以上となっている。達成した理由として、読本「ひと・つながり」や「わたしたちの道徳」などを活用し、年間計画に従って学習を行ったことと、道徳の授業や人権学習を計画的に行うことで人権意識を高めることができたことがあげられる。このように人権教育は一定の成果を上げているが、いじめについてごく小さいものも含め調査した結果、かなりの数のいじめがあり、最近の傾向として携帯電話やスマートフォンのトラブルからいじめに発展したものも数多くあった。家庭および地域と連携しながら発生の抑制と早期解決を図っているのが現状である。係活動や委員会活動については一定の成果を上げているが、児童の意識を向上させ、もっと積極的な活動にしていきたい。

学校の情報公開の点においては、ホームページの年間の記事のアップ数が200回を超え年々閲覧数も増加している。しかし、1日の閲覧数は平均で50回に達していない。記事や配布文書のアップ数をさらに増やし、閲覧数を増やしていきたい。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

学力向上については児童に、課題を明確に持たせ、また興味関心を高めるため具体物や半具体物、ICTを効果的に活用した。さらにグループ学習やペア学習、習熟別・少人数など学習形態を工夫することで基礎的・基本的な内容の定着を図っている。しかし、全国学力・学習状況調査では正答率が年度によって全国平均と同程度であったり、下回ったりと安定していない。無解答率は、どの年度も高い傾向がある。また、学力が2極化傾向にあることも大きな課題となっている。全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、シャトルランなどの持久力の必要な項目や長座体前屈などの柔軟性の項目が全国平均を下回る。また、運動習慣等の調査では、スマートフォンやテレビなどに費やす時間が長く、運動や勉強に費やす時間が短くなっていることも大きな課題である。

**中期目標****【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**

○平成32年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を85%以上にする。

○平成29年度～32年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%以上にする。

○平成32年度の校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を平成28年度の全国学力・学習状況調査より毎年向上させる。

○平成32年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を90%以上にする。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 32 年度の全国学力・学習状況調査における無解答率を平成 28 年度 (6.65%) より 3 ポイント以上減少させる。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を,平成 28 年度(96.9%)より向上させる。
- 特に課題であるシャトルランと長座体前屈の記録を,平成 33 年度の全国体力・運動能力,運動習慣調査において,平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。
- 平成 32 年度末の校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし,健康に気をつけている」の項目について,「当てはまる(どちらかといえば,当てはまる)」と答える児童の割合を向上させる。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標 (全市共通目標を含む)

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校園・家庭・地域) の実現】

#### 全市共通目標 (小・中学校)

- 平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について,「当てはまる(どちらかといえば,当てはまる)」と答える児童の割合を 80%以上にする。
- 平成 29 年度末の校内調査において,学校で認知したいじめについて,解消した割合を 95%以上にする。
- 平成 29 年度末の校内調査において,暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 平成 29 年度末の校内調査において,新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

#### 学校園の年度目標

- 平成 29 年度の校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について,「当てはまる(どちらかといえば,当てはまる)」と答える児童の割合を平成 28 年度の全国学力・学習状況調査より向上させる。
- 平成 29 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 85%以上にする。

## 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

### 全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 6 割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 8 割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルランと長座体前屈の平均の記録を、前年度より 2 ポイント向上させる。

### 学校園の年度目標

- 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における無解答率を前年度より 1 ポイント減少させる。
- 平成 29 年度末の校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を前年度より向上させる。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」の年度目標を達成するために、学期に 1 回のあいさつ強調週間やクラスで順番にあいさつ当番に取り組んだり、ゲストティーチャー派遣事業などにより芸術鑑賞や体験活動を実施したりして、自尊感情や相手を思いやる態度を育てた。また、学期に 1 回以上「よいところ見つけ」や「すてきな自分カード」で自己分析を行った。

落ち着かない児童のクールダウンや学級に入りづらい児童のためにカウンセリングルームの環境を改善し、活用できるようにした。結果として、不登校気味であった児童が 2 名、毎日登校できるようになったことは大きな成果である。また防犯教室や定期的に関係諸機関と連携をとり、児童健全育成に努めた。ホームページの更新回数は 900 回以上で、閲覧数も 30,000 回を超えた。

これらの取組の結果、年度目標の平成 29 年度の学力経年調査において、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目については、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合は、84%で達成した。保護者アンケートの同じ質問でも 86%が肯定的な回答であった。また「自分にはよいところがあると思いますか」の校内アンケートの質問では、83%の児童が「ある」と答え平成 28 年度の全国学力・学習状況調査の 69.9%より大幅に向上した。今後も自尊感情を高める手立てを考えていきたい。

平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合は 97.1%で達成できた。暴力行為を複数回行う加害児童数は前年度よりも減少した。また、新たに不登校になる児童も前年度に比べ減少した。今後もいじめの早期発見や不登校児童減少のためにいじめ対策委員会など教職員の情報交換を活発にしていきたい。

保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答えた保護者の割合は94%と、目標を大きく上回った。今後は内容の充実を図っていきたい。

「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」の年度目標を達成するために、学力向上の取組として、子どもの興味関心を高めるためにタブレット等のICTの活用を校内研究の視点のひとつとして取り組んだ。また、家庭学習の習慣化を図るため、自主学習ノートを紹介し継続させるように働きかけた。学力の基礎となる読書環境も整備し、読書の質と量の向上を図った。教員の指導力向上のために全員研究授業や校内研修などを行った。

これらの取組はそれぞれ一定の成果を上げたが、全市共通の年度目標については、達成できないものもあった。平成29年度の小学校学力経年調査において、標準化得点は、95.2%であり、前年度より1.7ポイント下がった。正答率6割以下の児童を同一の母集団で比較すると、4年生は前年度より8.3ポイント、5年生では16.2ポイント増加した。6年生は13.3ポイント減少した。また正答率8割以上の児童を同一の母集団で比較すると、4年生は前年度より31.0ポイント、5年生では33.7ポイント減少した。6年生は15.5ポイント増加した。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は60.8%であったが、前年度より5.3ポイント下げ、増加させることはできなかった。話し合う活動の場の設定はしているものの、それが考えを深め、広げるまでに至っていない。今後はその点を改善した授業を構築していきたい。

平成29年度の全国学力・学習状況調査における無解答率は、平均で2.0%となり、前年度より4.7ポイント減少し、学校の年度目標を達成できた。この取組の成果は、学力経年テストの結果にも表れている。

体力向上の取組として、体育科の授業の準備運動に、柔軟性を高める体ほぐしの運動を徹底した。また、なわとび週間やかけ足週間、各学級でみんな遊びを週2回以上設けるなど、運動の生活化を図った。健康に関する意識を向上させるために「手洗い・うがい」の強調週間や清潔調べを行った。

平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、シャトルランと長座体前屈の平均の記録は、前年度よりシャトルランは1ポイント、長座体前屈は、4.2ポイント増加した。シャトルランは目標に達しなかったが、取組の成果はあげることができた。今後も体育科の授業内外で、運動量をしっかり確保できる取組みを進めたい。

平成29年度末の校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合は72%となり、昨年度より8ポイント下がった。今後、児童が健康により関心を持つことができるよう取組を強化するとともに、保護者にも積極的に啓発していきたい。

## 大阪市立菅原小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <p>○平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>○平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容, 取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校, 教育環境の実現】</b></p> <p>本年度, いじめの解消・解決のため, 早期発見を目指し教育相談とアンケートを実施する。また, 実態把握と共通理解のため, いじめ防止対策委員会を活発に活用する。</p>	B
<p><b>指 標</b></p> <p>いじめアンケートを年3回, 教育相談を必要に応じて行い, いじめ防止対策委員会を年10回行う。</p>	
<p><b>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校, 教育環境の実現】</b></p> <p>本年度, 落ち着かない児童のクールダウンや指導のためスクールカウンセラーとも連携し, カウンセリングルームを活用する。勉強等にも対応できるようカウンセリングルーム等を充実させる。</p>	B
<p><b>指 標</b></p> <p>カウンセリングルーム等の環境を改善し, 活用回数を昨年度より充実させる。</p>	
<p><b>取組内容③【施策1 安全で安心できる学校, 教育環境の実現】</b></p> <p>学校や家庭, 児童の健全育成に関わる関係諸機関と連携し, 防犯教室の開催及び情報交換と行動連携に努める。</p>	B
<p><b>指 標</b></p> <p>防犯教室を2回開催する。必要に応じ, 家庭と連絡をとり, 校内ケース会議を行う。また, 区役所とも連携したケース会議を行い, 情報交換と行動連携に努める。</p>	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合は 97.1%で目標を達成することができた。

○平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数は、前年度より減少させることができた。

○平成 29 年度末の校内調査において、不登校気味の児童は固定化されてはいるが、新たに不登校になる児童の割合は前年度より減少させることができた。

### 取組内容①

児童のいじめアンケートを実施し、いじめと認識したものについては、全体指導や個別指導を随時行い、早期の解決・解消に努めてきた。毎月の企画会後にいじめ防止対策委員会行い、情報交換をして連携を図っている。

### 取組内容②

カウンセリングルームを整備し、教室に入りにくい児童が登校できるようになってきた。担任と担任外の教員等が連携して、学級での学習内容を指導し、学力を補っている。まだ完全には学級に戻ることができていない児童もいるため、引き続きスクールカウンセラー等とも連携し、学級に戻れるように働きかけている。ミーティングルームについても、クールダウンやトラブルの聞き取り、話し合い等に活用できるよう整備を行った。

### 取組内容③

防犯教室は計画通り実施され、高学年では、実践的なものが行われた。

必要に応じて校内ケース会議を開き、区役所や子ども相談センターを交えたケース会議を開くことで連携に努めてきた。

## 次年度への改善点

### 取組内容①

- ・今後も計画的にアンケートを実施し、継続的に指導を行っていく。
- ・子どもの普段の様子によく目を配り、いじめの早期発見・解決を図る。
- ・アンケート実施の際には、いじめの定義についてなど、学年に応じた適切な事前指導を行う必要がある。

### 取組内容②

- ・カウンセリングルームやミーティングルームの使用し、他の児童のクールダウンや指導等で利用できるよう、空きスペースの整備に努める。
- ・同時に複数の児童がクールダウン等を必要とするとき、担当教員だけでは対応できないため、学校全体として組織的な対応を図ることができるよう有効な手立てを構築する必要がある。

### 取組内容③

- ・防犯教室の内容を充実するため、警察等関係機関との連携をさらに進める。
- ・今までもケース会議で話し合われたことを全教職員で共通認識してきたが、今後いっそう学校全体の問題として取り組んでいく必要がある。

## 大阪市立菅原小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成29年度の校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を平成28年度の全国学力・学習状況調査より向上させる。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容, 取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>元気よくあいさつのできる子どもを育てるため, 児童会を中心に全学年で「あいさつ運動」に取り組む。</p>	B
<p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「毎月の生活目標」に, 学期に1回あいさつに関する目標を入れ, 学期に1回あいさつ強調週間を実施し, 振り返りを行う。</li> <li>・校内アンケートで, あいさつの項目で「よくできた(だいたいできた)」と答える児童の割合を80%以上にする。</li> </ul>	
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>芸術鑑賞によって情操教育を推進する。また, 社会見学および講師招聘での体験学習や学級活動での取り組みによって自尊感情を育てる。</p>	A
<p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級で, 学期に1回以上「よいところ見つけ」などを行ったり, 学期に1回, 自己評価シートで自己分析を行ったりすることで, 自尊感情を高める。</li> <li>・芸術鑑賞を年1回, 社会見学を各学年1回以上, 体験学習を各学年1回以上行う。</li> </ul>	
<p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>きょうだい学年による活動の活性化を図り, 異学年交流を深めるとともに, ゲストティーチャー派遣事業により, 「いのちと性」の教育事業, 子どものストレスマネジメント教育事業, 子どもの情報モラル教育事業を実施し, 自分や他者の価値観を尊重し, 相手を思いやる心を醸成する。</p>	B
<p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回以上, きょうだい学年による集会活動を実施する。</li> <li>・「いのちと性」の教育事業, 子どものストレスマネジメント教育事業, 子どもの情報モラル教育事業を実施する。</li> </ul>	



## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば, 当てはまる)」と答える児童の割合は 84% で、目標の 80% を上回ることができた。

○平成 29 年度の校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば, 当てはまる)」と答えた児童の割合は 83% で、平成 28 年度の全国学力・学習状況調査の 69.9% より向上した。

### 取組内容①

- ・生活目標にあいさつに関する目標を学期に 1 回入れたり、あいさつ強調週間を学期に 1 回実施したり、クラスで順番にあいさつ当番を行ったりしたことで、あいさつへの意識が向上した。
- ・校内アンケートのあいさつの項目で「よくできている(だいたいできている)」と答える児童が 83% で、目標の 80% を上回った。

### 取組内容②

- ・学級で学期に 1 回「よいところ見つけ」などを行ったり、自己評価シートで自己分析を行ったりすることで自尊感情が高まり、アンケートで「自分にはよいところがある」と答えた児童は、全体で 69.9% から 79.2% に上昇した。
- ・芸術鑑賞や社会見学・体験学習に各学年で取り組み、情操教育を推進することができた。

### 取組内容③

- ・毎週の児童集会の時間には、高学年のリーダーを中心にきょうだい学年で仲良く遊びながら異学年交流を深めることができた。その中で、上の学年が下の学年を思いやる心が育った。
- ・計画通り、「いのちと性」の教育事業、ストレスマネジメント教育事業、子どもの情報モラル教育事業を実施し、相手を思いやる心が育ち他者を尊重できるようになった。

## 次年度への改善点

### 取組内容①

- ・来年度も、あいさつ週間やあいさつ運動を継続する。あいさつはできているものの、声が小さい児童も多い。しっかり顔を見て、大きな声であいさつできるよう、学級をはじめ学校全体で指導を継続する。

### 取組内容②

- ・来年度も、芸術鑑賞やよいところ見つけなど、自尊感情を高める取組を引き続き行うとともに、さらに内容の工夫を重ねていく。

### 取組内容③

- ・きょうだい学年でいっそう交流を深め、思いやりの心を育むことができるよう、集会内容を工夫する。
- ・自分や他者の価値観を尊重し、相手を思いやる心を醸成するためのさまざまな事業について、学年の偏りなく系統的に実施していく。

## 大阪市立菅原小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成29年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を85%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容, 取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>ホームページや保護者会などで学校からの情報発信を常に行うことで, 透明性のある学校づくりを行う。</p>	A
<p>指 標</p> <p>ホームページの更新回数を300回以上, 閲覧数を20,000回以上にする。</p>	
<p>取組内容②【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>地域と連携のなかでその人材を活用し, 防災訓練や見守り隊などの活動をより活性化させる。</p>	A
<p>指 標</p> <p>地域とかかわる行事を年4回以上行い, 学校と地域の連携をより深める。</p>	
<p>取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>PTA活動もホームページで紹介するなど, 地域やPTA とのかかわりについても情報発信する。</p>	A
<p>指 標</p> <p>地域やPTA活動についてホームページ等で紹介する回数を10回以上にする。</p>	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標『平成 29 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 85%以上にする』で、保護者アンケートの結果は 94%であり、目標を大きく上回った。

### 取組内容①

ホームページ更新回数は 900 回以上、閲覧数は 30,000 回を超えており、指標を大きく上回って達成した。保護者から楽しみにしているという言葉もいただいております、地域・保護者に対して、学校情報の積極的な情報発信ができた。

### 取組内容②

地域とかかわる行事として、グランドゴルフ、図書館開放、読み聞かせ会、サマースクール、昔遊び、防災訓練、ふれあい清掃、感謝のふれあい給食、見まもり隊ありがとう集会の 9 回を実施し、指標の 4 回を大きく上回った。また児童から地域のお年寄りへ手紙を送る活動では、返事をいただいた児童もいたなど学校と地域との連携が、確実に深まった。

### 取組内容③

菅原まつり等の地域の行事の様子やサマースクール等の P T A の活動について、ホームページに 40 回以上掲載しており、指標を大きく上回った。

## 次年度への改善点

### 取組内容①

ホームページの記事内容に偏りがあるので、学校行事だけでなく、日常の授業や遊びなど普段の様子も発信することにより内容の充実を図る。

来年度も閲覧回数がさらに伸びるよう、保護者だけでなく地域のニーズも把握して、発信内容を工夫していく。

### 取組内容②

来年度も予定どおり行事を行い、内容を高めていくことで地域との交流・連携をさらに深めていく。

### 取組内容③

来年度も継続して P T A ・地域の活動やかかわりを発信し、地域に開かれた学校づくりをさらに進めていく。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査における標準化得点を, 前年度より向上させる。</p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査における正答率6割以下の児童を同一の母集団で比較し, いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。</p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査における正答率8割以上の児童を同一の母集団で比較し, いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。</p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて, 自分の考えを深めたり, 広げたりすることができていますか」に対して, 肯定的に回答する児童の割合を, 前年度より増加させる。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○平成29年度の全国学力・学習状況調査における無解答率を前年度より1ポイント減少させる。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容, 取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</b> 読書環境を整備し, 読書における質と量の向上を図る。</p> <hr/> <p><b>指 標</b> 学年に適した蔵書を増やし, 個別の読書カードを作成することによって, 読書への意欲を高め, 読書における質と量の向上を図る。</p>	B
<p><b>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</b> 学力向上を視点においた校内研修や研究を充実させる。</p> <hr/> <p><b>指 標</b> 全員参加型の研究授業・研究協議会を年6回, その他, 研究授業や校内研修を30回以上行い, 指導力の向上を図る。</p>	A
<p><b>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</b> 家庭学習の習慣化(家庭学習プリント, 自主学習ノートなど)を図る。</p> <hr/> <p><b>指 標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回家庭学習状況チェックを行う。</li> <li>・学期に1回以上, 良い自主学習ノートを紹介し, 意欲を高める。</li> </ul>	B

<p><b>取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</b>          子どもの興味・関心を高めるため積極的な ICT の活用を行う。</p>	B
<p><b>指 標</b>          タブレットや教室用パソコンなど ICT を使う授業を年間 3 5 回以上行う。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点は、95.2%で、前年度の 96.9%より 1.7 ポイント下がり、目標を達成することができなかった。</p> <p>○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 6 割以下の児童を同一の母集団で比較すると 4 年生は前年度 22.0%に対して今年度 30.3%の+8.3 ポイント、5 年生は前年度 12.3%に対して今年度 28.5%で+16.2 ポイント、6 年生は前年度 34.3%に対して今年度 21.0%で-13.3 ポイントであった。6 年生は目標を達成したものの、4 年生、5 年生は目標を達することができなかった。</p> <p>○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 8 割以上の児童を同一の母集団で比較すると 4 年生は前年度 50.2%に対して今年度 31%で-19.2 ポイント、5 年生は前年度 57%に対して今年度 33.7%で-23.3%、6 年生は前年度 33%に対して今年度 48.5%で+15.5 ポイントであった。前項と同じく 6 年生は目標を達成したものの、4 年生、5 年生は目標を達することができなかった。</p> <p>○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 60.8%で、前年度の 66.1%から 5.3 ポイント下回り、目標を達成することができなかった。</p> <p>○ 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における無解答率は 2.0%で前年度 6.7%より 4.7 ポイント上回って目標を達成した。</p> <p>学力経年調査については、全般的に目標を下回る結果になった。今後、児童が話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできるように、各教科で主体的・対話的な学習が効果的に行えるよう教材を精選する必要がある。また、児童の基礎学力の向上を図るため、計算練習や漢字学習などの基礎的な学力をスキルアップさせる時間を継続的に確保できるよう授業時間の使い方を工夫していく。</p> <p>家庭環境の厳しい児童は、遅刻をしたり朝食抜きで登校したりするものも多く、家庭との連携も含め、落ち着いて学習に集中できる環境を整えていく必要がある。</p> <p><b>取組内容①</b>          図書室を整備したり、学年に適した蔵書を増やしたり、読書カードを作成したりすることによって読書への意欲を高めてきたが、校内アンケートによると「自分から進んで読書をしている」割合は前年度より-11 ポイントの 65%であった。英語モジュールで朝の読書タイムが大幅に減ったことが一因と考えられるが、今後も図書室を魅力ある場に整備するとともに、読書カードを活用して読書への意欲を高める取り組みを続ける必要がある。</p> <p><b>取組内容②</b>          研究授業・研究協議会や校内研修、メンター研修など計画通りに行い、指導力の向上を図っている。</p>	

### 取組内容③

3 学期の家庭学習調査では、日常の課題の提出率は 93%、課題として出した時の自主学習は 91%、課題ではない場合は 22%であり、いずれも 2 学期より数ポイントずつ増えている。自主学習については良いノートを紹介し、意欲を高める取り組みを各学級で行ってきており、課題となったときは工夫してくる児童も増えているが、自主的に提出する児童はまだ少ない現状といえる。

### 取組内容④

全教室にプロジェクターがつき算数科を中心にデジタル教科書を使用している。特に高学年では、社会や図工などでも書画カメラやタブレットを活用している。また、校内研究の視点にも I C T が取り入れられ、児童の興味・関心を高められるように工夫してきている。

## 次年度への改善点

### 取組内容①

- ・ 図書委員会と連携して、読書カードのさらなる活用を図る。
- ・ 友達や教師がおすすめの本等の紹介や読み聞かせを積極的にする。
- ・ 貸し出しの 2 冊のうち 1 冊は読み物を選ぶように指導する。
- ・ 読書する時間の確保を考える。
- ・ 期間を決めて、ピロティに本を置いて自由に読めるようにしたり、「2 分読み読書」に取り組んだりする読書イベントを設けるなど工夫して、読書への関心を高める。
- ・ 読み聞かせなど地域ボランティアのさらなる活用を行う。

### 取組内容②

- ・ 引き続き、計画的に実施していく。
- ・ 若手教員の指導力の向上を図る研修のあり方の工夫を行う。
- ・ 授業規律の確保は学力と直結するため、教科の研修だけでなく、生活指導の研修も取り入れていく。

### 取組内容③

- ・ 課題の未提出の児童は固定化している傾向があるので、家庭との連携が必要である。
- ・ 今後もよいノートを紹介して、意識付けを図っていく。
- ・ 自主学習については、学年により偏りがあるので、指導者側の声掛けや方策を研修する機会を設ける。

### 取組内容④

- ・ 効果的なタブレットやパソコンの使い方について研修を続け、指導に生かしていく。
- ・ 次年度導入される予定の国語科のデジタル教科書の使い方についても研修する。

## 大阪市立菅原小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <p>○平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルランと長座体前屈の平均の記録を、前年度より2ポイント向上させる。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○平成29年度末の校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を前年度より向上させる。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容, 取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b></p> <p>スポーツタイムを活用し、体力の向上を図るとともに運動好きな子どもを育てる。</p> <hr/> <p><b>指 標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学期にスポーツタイムを学年の実態に応じて実施する。</li> <li>各クラスで全員が遊ぶ「みんな遊び」を週2回以上実施する。</li> <li>なわとび週間やかけ足週間を実施し、記録カードにがんばりを記入することにより、児童に意欲を持たせる。</li> </ul>	A
<p><b>取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b></p> <p>体育の授業で、体ほぐしの運動を行うことで、児童の柔軟性を高める。</p> <hr/> <p><b>指 標</b></p> <p>体育の準備運動で、体ほぐしの運動を必ず行う。</p>	A
<p><b>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b></p> <p>健康に関する強調週間や清潔調べの実施で、児童の健康に関する意識を向上させる。</p> <hr/> <p><b>指 標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学期に1回、「手洗い・うがい」の強調週間を実施し、チェックカードを作って振り返りを行う。</li> <li>ハンカチやティッシュの携帯を意識づけるために、週1回清潔調べをする。</li> </ul>	B

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 取組内容①

各学年で 1 学期は水泳大会， 2 学期はドッジボールや色々な走り方での折り返しリレーなど， それぞれの実態に応じたスポーツ大会が実施された。クラス対抗で表彰状やメダルなどを用意することで子ども達の意欲も高まり， クラスの応援も盛り上がり学級集団作りにも役立った。また， みんな遊びを週 2 回以上実施することで， 楽しんで運動に取り組む児童が増え， 運動好きの児童がふえた。

なわとび週間やかけあし週間を実施し， 1 学期は水泳カード， 2 学期はなわとびカード， 3 学期はかけ足がんばりカードで自分のがんばりを記入した。そのことにより， 水泳やなわとび， かけ足への意欲が高まり， 進んでそれらの運動に取り組み， 泳力や持久力， 体力の向上が図られた。とくにかけあし週間では， 1 日目より記録が伸びた児童が多く， 体力の向上が図られた。

全国体力・運動能力， 運動習慣調査において， シャトルランの結果は 1 ポイント， 長座体前屈の結果は， 4.2 ポイント伸びた。

### 取組内容②

体育の授業で， 毎時間， 体ほぐしの運動を行ってきた。また， 体育部から色々な体ほぐしの運動を紹介され， それぞれの児童の実態に応じた運動を工夫して実施してきた。その結果， 中学年で 2.6 ポイント， 高学年では 0.3 ポイント， 1 学期より長座体前屈の記録が伸び， 児童の柔軟性を高めることができた。

### 取組内容③

日々の声かけや指導を徹底するとともに， 健康委員会の児童が毎日給食後のうがいをよびかけたり， 毎月ポスターを作って健康に関して意識を高める取り組み行ったりしてきた。また， 学期に 1 回「手洗い・うがい」の強調週間を設けてチェックカードで振り返り， 手洗いの放送をして児童の意識づけを図った。

ハンカチ・ティッシュの携帯については毎週 1 回各クラスで点検したり， 学期ごとのまとめの表でクラスのがんばりを知らせたりしてきた。これらの取り組みにより， 健康に関する意識の向上が図られた。学校教育アンケートで「体力や健康の向上に取り組んでいる」という項目で肯定的回答をよせた保護者が 3 ポイントふえた。

## 次年度への改善点

### 取組内容①

スポーツタイムやみんな遊びの内容の工夫を図るとともに， 教師がより積極的に子どもと一緒に活動し， 運動が好きで進んで運動する子どもを増やしていきたい。校内アンケートで「自分から進んで運動している」という質問に肯定的に答える児童の割合が中間評価より 5 ポイント下がっており， 冬の寒い時期の遊びの工夫をする必要がある。

また， 記録カードの内容をさらに改善し意欲を高める必要がある。

### 取組内容②

児童の柔軟性を高めるための運動を工夫するとともに， 体が固い児童への指導方法を全教員で共有できるよう研修する必要がある。

### 取組内容③

「手洗い・うがいができているか」という児童アンケートでは， 昨年度より - 8 ポイント， 中間評価より - 3 ポイントと下がってきている。習慣化できるよう日常的な声かけなど， さらに指導の徹底を図る必要がある。

ハンカチ・ティッシュの携帯についても， 持ってきていない児童が固定化している。家庭連絡や学年だより， 保健だより， ホームページなどで家庭への啓発を図り， 協力を得る必要がある。